

■「効果の見える治水事業」
香川県 大東川（丸亀市）の治水事業
『大東川広域河川改修事業』

香川県中讃土木事務所長 葛西 剛



大東川は、香川県中讃地域に位置しており、その源を丸亀市綾歌町とまんのう町の境界に位置する山地に発し、丸亀市飯山町、坂出市において支川を束ねながら北へ流下し、宇多津町で瀬戸内海に注ぐ流路延長約1.7km、流域面積約59km²の二級河川です。

その上流域は本川と並行する国道438号を中心に市街化が進行し、また、その下流域では瀬戸大橋を起点として社会基盤が形成されています。

本河川においては、昭和初期より河川改修事業として河口から我楽橋に至る約6.6km間の引堤や掘削による河積の拡大ならびに護岸の整備を実施しており、現在に至っています。

これまでに大東川では、流下能力不足のため、度々台風などの大雨によって氾濫を繰り返し、浸水被害が発生してきました。特に香川県全域に甚大な浸水被害をもたらした平成16年台風23号出水では、大東川沿川の丸亀市飯山町等において約400戸の浸水被害が発生しました。

このような現状において、年超過確率1/50の規模の洪水を安全に流下させることを目標として、平成13年度から我楽橋から富士見橋までの約1.7km間を飯山工区とし、掘削、築堤、護岸整備、狭窄した橋梁等大規模構造物の改築を行っており、平成24年度末現在で我楽橋上流約0.7kmまでの間の整備が完了しています。

近年では、平成23年度の度重なる台風による洪水が発生しましたが、これまで改修してきた施設により、治水効果が最大限に発現されています。治水安全度の更なる向上を目指し、引き続き、広域河川改修事業により、築堤や河道拡幅等の改修工事を行います。

今後も、大東川による浸水被害の軽減に向けて、関係機関と連携し、地元住民のご理解ご協力を得ながら、治水事業を推進して参ります。

位置図



②平成16年10月台風23号による浸水状況：国道438号



①現在の整備状況

大東川 事業計画区間 L=1,700m



「安心して暮らせ、親しまれる川づくりを目指して」



丸亀市は平成の大合併により、平成17年3月22日に丸亀市、綾歌町、飯山町が合併し、新「丸亀市」として新たに発足したまちです。

江戸時代より讃岐の国の西部を治める丸亀藩の城下町、また金刀比羅宮への参拝口として栄え始めて以来、当地域の政治、経済、文化等の中心として

発展してきた丸亀市、県下一の桃出荷量を誇る讃岐富士と田園のまち飯山 **丸亀市長 梶 正治**

町、高見峰・猫山・城山からなる連山の麓に四国最大のレジャースポット「ニューレオマワールド」のある綾歌町と新「丸亀市」は自然・歴史・文化等が調和した比較的災害の少ない非常に暮らしやすいまちではありますが、平成16年10月の台風23号来襲時には綾歌町・飯山町を貫流する大東川では甚大な浸水被害が発生し、特に飯山町川原地区周辺においては140棟を超える床上浸水被害が発生しました。



宮池より望む讃岐富士

大東川は、讃岐山脈北部の前山丘陵を源とし、途中で支川を束ねながら流下し、綾歌郡宇多津町において瀬戸内海に注ぐ二級河川です。中流域にあたる飯山町では宅地開発が進む中で、大東川は河積が狭小で流路も屈曲が著しく緩勾配であるため、豪雨時における流水の円滑な流下ができず、溢水や氾濫を引き起こし、流域の家屋や農地等に大きな被害を与え、周辺住民に不安を与え続けていました。

現在、大東川におきましては香川県施行による河川改修事業として下流側の我楽橋から上流側の富士見橋までの約1.7kmの改築を進めており、地元住民の皆さんのご協力もあり、事業は着実に進捗しています。

この場をお借りしまして香川県担当部局より多大なるご尽力をいただきましたと深く感謝を申し上げますとともに、今後とも本市における治水事業につきまして、特段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

このように、大東川においてはハード面での河川整備の充実が図られる一方、地元市民団体・丸亀市・香川県が三位一体となって協働し、ふるさとの河川環境を守るリフレッシュ「香の川」パートナーシップ事業により河川美化清掃活動、河川愛護活動なども活発に行われており、ますます身近で親しみのある憩いの場となっています。

丸亀市におきましては、今後も「安心して暮らせ、親しまれる川づくり」を目指し今まで以上に尽力していきたいと思っておりますので関係諸機関の皆様方には今後ともご指導、ご協力をお願い申し上げます。



飯山町の特産物の桃



仁池より望む高見峰・猫山・城山